

質問 42. 十戒の要約は 何ですか。

答え I 十戒の要約は 心を尽くし 精神を尽くし 力を尽くし 思いをつくして 私たちの主である神を愛すること また 私たちの隣人を 自分自身のように愛することです。

1. 十戒の 第一の部分は 何ですか。

十戒は、二つの石で構成されているので、二つの部分として分けられます。第一の部分は、神に対する義務などの規定です。神を、心を尽くし、思いを尽くし、愛することです。主が、私たちの神であるという、認めがあるべきで（申 30:6）、それによって謙遜と、そして、偽りなく神を愛することです（ロマ 12:9）。心と思いを尽くすというのは、霊魂のすべての機能と情緒を尽くすということ（イザヤ 26:8-9）、神を愛することを最優先順位にすることを意味します（ルカ 14:26）。私たちが主を愛するとは、自分の命よりも愛することであり（ピリピ 3:8）、主にあつて、私たちの霊魂は、永遠の安息を得られるということ（詩 73:25-26）。

2. 十戒の 第二の部分は 何ですか。

隣人を自分自身のように愛しなさい（マタイ 22:39）。これは、私たちの幸福と神の栄光を目的とします（I コリント 10:31）。隣人を、自分自身のように愛しなさいとは、真実であり誠実に愛することを意味します（エペソ 5:29）。隣人を愛することには規定がありますが、それは、ほかの人が私にして欲しいと望むことを、ほかの人にも行いなさいということです（マタイ 7:12）。キリスト者は、すべての人に善を行うべきですが、特に信仰の人たちに最も善を行い、愛すべきです（ガラテヤ 6:10）。敵に対しても赦すこと、喜んで彼らを

祝福してあげなさい（マタイ 5:44；使徒 7:60）。十戒の第二の部分の目的は、ほかの人に慈悲を与えることと、清い心と正しい良心と偽りのない信仰によって、ほかの人を愛することです（I テモテ 1:5）。

質問 43. 十戒の序言は 何ですか。

答え I 十戒の序言はこうです。「わたしは主 あなたの神 あなたをエジプトの国 奴隷の家から導き出した神である」。

質問 44. 十戒の序言は 私たちに 何を教えますか。

答え I 十戒の序言は 神は主であり 私たちの神 また贖い主であられるので 私たちは 神のすべての戒めを 守らなければならないことを 教えます。

1. 十戒の序言で 神は ご自分のことを どのように告げていますか。

十戒の序言で、神は、「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」（出 20:2）と告げておられます。神が主となられ、私たちの神、贖い主となることを宣言しておられます。主なる神というのは、全地の上におられる高き神のことであり（詩 83:18）、私たちの神となれるのは、神はご自分の民たちに善であることを意味します。贖い主となられるとは、私たちが罪から救われる方を意味します。従って神は、私たちに当然、従順を求めておられ、私たちも当然、神に従順しなければなりません（レビ記 20:8）。最も、イスラエルをエジプトの地から救い出したことを仰せることで、神の民は、

必ず、戒めに従順しなければならない理由を明らかにしました。

2. 出エジプトの事件は 霊的に どのように理解することができますか。

出エジプトの事件は、霊的に、キリストによる贖いを意味します。エジプトでのイスラエルは、残虐な統治者の下で厳しい奴隷生活をしました（出 1:14）。それはまるで、人間が、自然的本性の中で罪と悪魔の奴隷になっているのと同じです（Ⅱペテロ 3:19）。イスラエルの民が、自分たちの力では奴隷生活から解放されることができなかつたように（出 2:23）、人類は、自分自身の力で、罪の奴隷状態から抜け出ることができません（ロマ 5:6）。イスラエルは、神の全能なる御手によってエジプトから救われました（詩 110:2-3）。神がエジプトを打ち砕き、イスラエルを救い出しました（出 14:28）。同じように、キリストが、武装勢力を持つ者を取り押さえ、神の選ばれた民を、罪から救い出しておられます（コロサイ 2:15）。従ってキリストによって贖い出された民は、神の戒めを守らなければなりません（テトス 2:11-14）。

3. 神が 十戒の 二人称単数である「あなたには」と告げながら、 また「あってはならない」となされた 理由は 何ですか。

神は、戒めを各々個人に語られました。まるで、私たちの名前を各々呼ばれるように、特定な個人たちに仰せられるのです。個人たちは、自分が戒めを守っているのかどうかを調べなくてはなりません。「あってはならない」との命令は、強力な規定として、常にいつでも適用できることを意味します。従って十戒は、宇宙的な特徴を持っています。過去のすべての人と現在、未来のすべての人にも適用され、どの場所にいる人にもすべて適用されるのです。すべての人々に、十戒は拘束力を持っています（ロマ 2:14）。救いの恵みを受けた者たちには、言うまでもなく拘束力を持ちます。従って、救われた者たちは、律法、あるいは、十戒を守らなくても良いというなら、それな偽りの教えです。

質問 45. 第一戒めは 何ですか。

答え I 第一戒めは「あなたには わたしのほかに ほかの神々があってはならない」です。

1. 十戒の中で 第一戒めは 何ですか。

「あなたには、わたしをおいて、ほかの神があってはならない」（出 20:3）です。第一の戒めの特徴として、律法が最も重要視するのは、主なる神を、私たちの神としてあがめることが義務だということです（出 15:2）。これは、すべての人々に、ほかの戒めも従順するように影響を与えます（詩 118:28）。第一の戒めに従順するとは、神が私たちの神であることを信じることです。この信仰がなければ、私たちは神を喜ばせることはできません（ヘブル 11:6）。信仰から出ていないことは、すべてが罪です（ロマ 14:23）。神を一番、最優先にあがめるべきですが、人間は墮落した以降、不信仰と悪な心に満ちていて、神を求めることもあがめることもしないのです（ロマ 3:11-18）。従って、律法は、神をあがめようとせず、礼拝をしない者たちに向かって、罪人と証します（ロマ 3:19-20）。

2. 十戒の序言と 第一戒めとは、どのような関係を持っていますか。

十戒の序言は、信仰の対象について説明をしていますが、第一戒めは、信仰の対象に対する義務のことを語っています。序言は、恵みをお与えになる神を言及していて、第一戒めは、恵みをお与えになる神に、最優先順位をおき、あがめなければならないことを語っています。神から恵みを受けた者は、神に対しての義務を負います（ヨハネ 3:18）。従って恵みが、律法を無効にしてしまうのではありません（ロマ 3:31）。序言と関連して第一戒めは、神を、唯一の私たちの神として知り、認め、神を礼拝し、栄誉をたたえるべきだと語っています。

質問 46. 第一戒めでは 何が 求められていますか。

答え I 第一戒めでは 私たちに 神が唯一のまことの神として知り 認めること そして それに相応しく神を礼拝し 神の栄光をたたえることを求めています。

1. 第一戒めが 求める 神に対する知識は 何ですか。

第一の戒めでは、神に対する知識を求められます。神は、ご自身のみことばの中に、ご自分のことを啓示なさいました（ヘブル 1:1-2）。神は、ご自分のことを主だと明らかにし、あわれみ深く、恵みとまことに満ち、怒るのにおそく、慈しみと真実に富む神だと告げられます。また、恵みを千代まで保ち、悔い改める者には咎と背きの罪を赦しますが、罰する者に対しては裁く方だと宣言されます（出 34:6-7）。神はご自身が、キリストを通して、この世とご自分とを和解させる方と告げられます（Ⅱコリント 5:19）。罪人たちは、神の裁きを恐れますが、キリストの中に罪の赦しと、神と和解させられる恵みがあることを知るようになれば良いです。

2. まことに 神を知る 知識は何ですか。

神を知る知識には、理論的に知る一般的知識があれば、もう一方で、救いの知識があります。神に対する一般的な知識は、救いの恵みなしに、頭だけで知る知識です。聖霊の御業によって心の変化がなければ、行いとして示されない知識です。一般的な知識は、偽善者と不敬虔な者たちにあるものとして、神を知っていると告白はするのですが、行いでは否定します（テトス 1:16）。しかし、救いの知識は、キリストを通して神と生き生きした関係を持つようになり、神の御心と一致する生活をしようと努力します（Ⅰヨハネ 2:3-4）。救いの知識は経験的で

あり（コロサイ 1:6）、清められ（Ⅱペテロ 1:8）、謙遜な者になります（ヨブ 40:4-5）。

3. 神を認めるとは 何を語っているのですか。

神を、この世に向かって告白することです（ロマ 10:10）。神を知ることと、認めることが連結されている理由は、救いの知識が心に植えられている分だけ、いつも、自分自身に対しても、ほかの人に対しても、証しが現れるからです（ダニエル 11:32）。神を認めるとは、神をただ唯一であり、真実な私たちの神として認めることです。神と関連して認めるとは、神を、救い主として告白することですが、キリストを通して父に近づけることを意味します（ヨハネ 14:6、9）。

4. 私たちが神を知り 認める証しとして

第一戒めでは 何を求められていますか。

神を礼拝し、栄光をたたえることです（マタイ 4:10）。神を礼拝するとは、私たちの密かな敬虔生活と、公の礼拝の中で、神に最高の尊敬を捧げ（詩 71:19）、神を望みとし（詩 73:25）、神を楽しむことです（詩 142:5）。神の栄光をたたえるとは、神にすべての栄光を帰させ（出 15:11）、世において私たちのすべての行動は、神の栄誉を高める目的として行うことです（Ⅰコリント 10:31）。神を礼拝し、栄光をたたえるのには、信仰の行いだけではなく、市民生活においても、神との親密な交わりを持つことが含まれます（詩 45:11；Ⅰコリント 6:20）。

5. 神を礼拝し 栄光をたたえる方法は 何ですか。

神を礼拝し栄光をたたえるのは、私たちの内面と（ヨハネ 4:24）外的なすべての行動を含めます（マタイ 5:16）。内的に礼拝を捧げるのは、神を信頼し（イザヤ 26:4）、望みを持ち（詩 130:5）、神の中で楽しむこと（詩 37:4）、黙想し

(マラキ 3:16)、私たち自身を神に献身させる(イザヤ 45:5)ことです。私たちが生活の中で、外的に礼拝を捧げるのは、神に祈りを捧げ、唇をもって賛美を捧げ(詩 142:1)。神の栄光のために熱心を出す(詩 69:9)、神を喜ばせるために霊的注意を払い(コロサイ 1:10)、神の御前に謙遜に行うことです(ミカ 6:8)。

質問 47. 第一戒めでは 何が禁じられていますか。

答え I 第一戒めで 禁じられているのは まことの神を神とすることを否定し あるいは まことの神として礼拝せず 栄光をたたえないこと さらに 神のみに捧げるべき礼拝と栄光を ほかの何者かに与えることです。

1. 神を論理的に 認めないのは 何ですか。

無神論です。神はいないと口で言いながら、神の存在と関連する証拠などを否定することです。無神論者たちは、神の摂理と完全なる神を否定します。そして、神はいないと公に言います。無神論者たちは、神が宇宙万物を支配されるのを認識することができないと主張し(イザヤ 41:23)、神の存在を否定します(Iヨハネ 1:5)。無神論者たちは、神はいないと主張はしますが、彼らの内心には神に対する恐れがあります(ダニエル 5:6, 9)。なぜなら、人間には、自然的に神の存在に対する知識があって、自分の理性によってそれを振り切ることができないからです(ロマ 1:19)。このような者に対して聖書は、愚か者と宣言します(詩 14:1)。

2. 神を 否定する者たちの生活は どうでしょうか。

神の摂理と属性を否定する者たちは、神の超自然的な啓示を否定しながら、悪

と不敬虔な生活します（詩 10:4、11、13）。彼らが、神の存在を否定するのは、自分たちの情欲的な生活に邪魔を受けたくないからです。そして、すべての不正と不潔な行いをします（エペソ 4:19）。そして、彼らは、神を否定する生活します（テトス 1:16）。神を否定する悪人たちは、自然の本性の光に反する行動をします（ロマ 1:21）。彼らは神を認めないで、神に対する義務も行わず、自分自身を基準とし、自分のためにだけ生きて行く者たちです（詩 73:5）。それは、神に帰すべき栄光を自分に返すことであり、神を侮辱することです（I サムエル 15:30）。

3. 偶像崇拜は 何ですか。

神でない事物や、人間に礼拝をすることを偶像崇拜と言います（レビ記 26:1）。人々が形を作って礼拝するのも偶像崇拜です（詩 135:15-19）。人々が、無益な想像力を動員させて、不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や獣の形に作って礼拝することです（ロマ 1:21-23）。もしや形は作らなかったとしても、心に神でないほかの物を神として拝むのも偶像崇拜です（エゼキエル 14:4）。人類の中で最も簡単に発見できる偶像崇拜は、自分自身とこの世を拝むことです。この世の富と楽しみを追い求めて、到底、神を探す心を持たないことです。従って、偶像を離れ、まことの神を礼拝するまことの信仰は、自分を否定し（マタイ 16:24）、この世の一時的なことに心を置かないことです（マタイ 6:31；I ヨハネ 2:15）。

4. 悪魔は 人々の心に 偶像をどのように 作りますか。

悪魔のことを「この世の神」と呼び（II コリント 4:4）、不従順の子らの中に働いている霊だと言います（エペソ 2:2）。悪魔は、人々の靈魂に偶像が居座るように誘惑し、キリストに行けないようにします。悪魔は、人々が迷信的なことと、占い術に嵌って、呪われるべき行為をするように誘導します（申 18:10-12）。悪魔は、この世を用いて、人々が世の楽しみから抜け出られないようにさせ、一切、神を探し求めないようにさせる方法を用います。この世の神の主観から抜け

出られる方法は、神のみことばを読み、聖霊の御業があるように求め、自分は偶像崇拝をしていることを悟り、それらから抜け出るために、神に恵みを求めることです（Iテサロニケ 1:9）。

質問 48. 第一戒の「わたしをおいて ほかに」ということばによって、私たちは 特に 何を教えられていますか。

答え I 第一戒の「わたしをおいて ほかに」ということばは、すべてのことを見ておられる神は どのような ほかの神を持つ罪にも注意を払われこれを非常に 嫌うことを 私たちに教えています。

1. 第一戒の「わたしをおいて ほかに」（あるいは わたしの前で）ということばの背景は 何ですか。

すべてのことを見ておられる神の前で、ほかの神々に仕えるのは大変大きな罪だということです（ヘブル 4:13）。神がすべてのことを見ておられるとは、被造物に対して完全な知識を持っておられるということです（詩 147:5）。神は、一瞬にしてすべてのことを知っておられる方です（Iヨハネ 1:5）。神は創造主であり、万物を主管なさる主であり、この世を裁く裁き主であるからです（Iコリント 4:5）。従って、神は、人々が神の戒めを守らないのと、神に敵対するすべて知っておられますが、特に神でない偶像を拝むことに注目なさっています。

2. ほかの神に仕えることに対して 神はどのように 処分なさいますか。

私たちの心が、神より、もっとほかに関心を持ち、それを追及することに対し

て神は知っておられます（イザヤ 46:9）。神は、私たちの生活は勿論、礼拝するのも見ておられます。しかし、私たちが誠に神を礼拝しないなら不愉快に思われ、偶像を拝んだり、ほかの神に仕えることに対しては激怒します。神の御怒りは、この地においても、来るべき後の世でも起きます（申 29:24-29）。このような罪は、神の権威に直接的に挑戦することであり、神は、一番高くあがめられるべきであり、当然、仕えられるべき権利があるからです（エレミヤ 32:30）。